

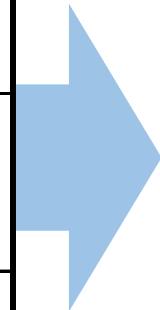
H30年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (NIHO アルテ) 作成日時 (平成 30年 9月 21日)

代表	施設長	本部
印		

H29年度 改善への取り組み	情報の共有・周知・徹底に向けてコミュニケーションがとりやすい関係の構築
今年度の施設目標	誰もがわかりやすく過ごしやすい、安心感を与えられる環境づくりとQOLの向上に努める

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	活動スペースの確保ができていますが、利用人数により足りなく感じることがある	人員が不足していると感じる時がある OT.STなどの専門家がいるといい バリアフリー化の配慮はされているが、誰しもが過ごしやすいかどうかはわからない
業務改善	PDCAサイクルに広く職員が参画している 研修機会の確保が出来る	保護者に対するアンケート調査の実施の機会が少ない 自己評価結果のHPへの公開がされていない 第三者による外部評価の実施、評価結果の反映がされているかどうかは分かりにくい
適切な支援の提供	アセスメント実施・保護者のニーズ・課題分析のもと、支援計画の作成が行われている プログラム活動が工夫されている 利用時間に応じた支援の設定がされている 支援開始前の職員間の打ち合わせができています	日々の記録と支援の検証、改善への連動が不十分 支援終了後の職員間の打ち合わせが曖昧 プログラム活動の立案を「チーム」で行っているのか？ 障害のない子供たちと接する機会がない
関係機関や保護者との連携	児童の状況や課題などの共通理解がされている 学校との情報共有が適切に行われている 協議会への参加 専門機関との連携、助言や研修の場がない	関係機関との連携の機会が少ない (就学前・卒業後の利用事業所、学校など) 保護者に対するペアレントトレーニング等の指導は不十分
保護者への説明責任等	支援の内容、利用負担についての説明がされている 保護者に対する面談、育児に対する助言が行われている 会報やHPなどによる情報発信がされている 個人情報への配慮がなされている	保護者会の開催、保護者同士の連携の場が少ない 苦情処理の体制が分かりにくい 意思の疎通、情報伝達への配慮が十分ではない
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル等の策定がされている 避難訓練の実施 ヒヤリハットの共有 虐待防止のための取り組み	緊急時対応・防犯・感染などのマニュアルの周知徹底が不十分 やむを得ない場合の身体拘束についての説明が支援計画書に記載されていない 非常災害時に備えての取り組みが詳細に説明されていない



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ●個々に合わせた支援、スペースの確保 ●個別活動と集団活動、集団の中での個別対応のバランスに配慮している ●スタッフ間の情報共有・意見交換が行いやすい雰囲気 ●コンサル・研修・実践報告会の実施

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ●他事業所や関係機関との連携が少ない。 ●日々の支援の内容を記録しているものが、その後に反映していない ●非常時の対応について、保護者向に向けての説明が不十分 ●保護者交流・地域交流の機会が少ない

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ●学校や他の事業所とも連携を図り、情報の共有を行い支援計画の作成につなげていく。 ●支援の流れに沿って必要な書類等の整理を行い、それに基づき環境設定や支援の方向性を見直し再構造化を行っていく。 ●活動全般（課題・プログラム活動・非常時の対応）について、ねらいや目的、活動を通して見えてきたもの、気づきなど保護者への説明は面談時に分かりやすい形で丁寧に行う。 ※防災時の対応・連絡方法など、書面での連絡（お渡し時に口頭で説明）→実際行っただけでの評価・確認（できたかどうか）→今後についての流れで最後まで対応していく。 ●誰もが分かりやすい形でPDCAサイクルを実施し、業務改善を目指していく。 ●パートスタッフの教育

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>日頃の子どもの様子から、支援の方法についてのディスカッションは行われていますが、それが書面として残されていなかったり、周知の仕方が甘かったりと保護者に対しても職員に対しても十分な対応ではなかったと思います。今後は継続的に情報を発信していくとともに、保護者や職員同士のかかわりの中で「気軽に相談できる雰囲気づくり」に努めていきたいと思っています。</p> <p>些細なことからの気づきや発見も大切に拾い上げ支援につなげていくこと、その情報がかかわるすべての人たちが共有出来る事、そのために自分たちの事業所が出来る事、役割やスタンスの確立など一つ一つ丁寧に積み重ねていきたいと考えています。</p>

来年度の施設目標	<p>児童・保護者・支援者にとっての「わかりやすさ」を実現するために視覚的構造化を見直す（風通しの良い環境づくり）</p> <p>日常生活動作をはじめとする、生活に密接する行為の自立に向けた取り組み。（QOLの向上）</p>
----------	--